

六月十六日

九時前寺町の妙高寺へ。自転車で行く。新築物件の打合せ。寺院の会館風のものになるのかなあ。十一時前世田谷村に戻り地下打合せ。打合せも刺激が無いと面白くない。十五時室内原稿の目ざわりデザインテーマを墓地と決めて資料を集め始める。野村の手を借りる。十八時書き始め二十三時迄かかる。台湾中原大学の黄先生より電話あり、この世田谷村日記を台湾で何かに使って良いかとの事。藤森照信の講義があつたらしく、それと一緒にまとめるとの事だつた。勿論OKである。中原大学もなつかしい処だ。

六月十七日

七時起床。今日の学部レクチャー、何を話すかまだ決まっていない。先週の七講でほぼ定番にしているものが終了した。折り返し地点である。きちんとやろうと決めてやる¹⁴回のレクチャーは大変だ。十二時レクチャー修了。今日の午後はどうなっているのかな。そういえば屋上菜園の鬼百合が満開だつたな今朝は。午後インタビュー2件、いずれもコンバージョンについて。松村秀一先生は大変だろうな。

六月十八日

今日の二時まで、興が乗ってエスキスを続けたので起床は八時。

エスキスが上手くゆくと我ながら希望が湧いてくるからおかしい。全く建築人間だなこれでは。三物件に関して光が指し込んできたような気がする。昨日の午後、初めて表現論らしきを書き始めたのがキツカケなのだろうか。アイデアはいつも突然生まれてくるが、やっぱり手を動かしていないと私の場合は何も生まれない。スケッチブックに描かれる線を頭でコントロールし、言葉で励ましながら、建築らしき姿を建ち上げる。あぶり出してみたいものだ。中国大連の大きなスケールの建築のエスキスを続けていたのも、別の仕事に良く影響したかも知れない。でもなア、上手くいったと思つた時が一番危ない状態でもあるから気をつけなと。十時地下打合せ。十三時半出。十四時五三分発のぞみで磯崎さんと大阪へ。シャープ、コンペ審査。十八時過大阪帝国ホテルでシャープ社長さん達と会食。二〇時過終了。日航ホテルへ。Barで磯崎さんと話す。二三時前、部屋へ。はからずも、神話の話が出たのが面白かつた。しかし、相変わらず磯崎さんと話しているとレクチャーを受けているばかりで情けない状態だ。そろそろ一矢くらい返したいものだが……。その形式が仲々視えてこない。磯崎さんに対するに技術論、流通論をやつたつて、失礼だな。アン・ビルトを今取り出して、中国を凝視する磯崎の未来は安定した退屈さを好まず、変化に変化を重ねさせる方法の行末は何処か。しかし、磯崎新と話していると、スリルがある。二三時過ぎにはBedに入ったのだが、三時に目覚めてメモを記している。

六月十九日

やはり少々気持ちが高振っているのだろう。堀田善衛の「定家明月記私抄」読む。今、私達は白い廢墟に、定家同様に立ち尽し

ている。七時二〇分レストランで朝食。磯崎さんと四方山話。八時ホテル発天理へ。天理工場にてコンペ最終審査。最優秀は無し、優秀二点。謂はゆる佳作五点を選出する。十四時社長、副社長、首脳陣に経過を磯崎さん説明。了承を得る。それぞれの案について若干の説明をした後、完了。十四時磯崎さんと車で天理市へ。天理市をグルリと見学して、参考館へ。古代中国、エジプト等の収蔵品を見る。思わぬ処に思わぬモノがあるものだ。後漢一世紀灰陶加彩楼閣（物見やぐら）等見事であった。見学後、磯崎さん、奈良の建築を一つ見てゆこうと言い出して、法隆寺に行く。百済観音の居る新しい宝物館その他見る。十六時半京都へ向かう。十八時京都祇園切り通し、四条上ル、おいと。浅田彰と三人でメシ。二〇時過、沢山食べて京都駅へ。のぞみで東京へ。二十三時半頃東京着。東京駅で磯崎さんと別れ世田谷村へ、〇時三〇分ごろ帰る。

台風6号は日本海へ抜けた。法隆寺は人も少なく、良かった。が、次第にこの日本の古典らしきが怪しく見えてきているのも確かだ。磯崎の影響かコノ感じは。